



# 日本金銭機械株式会社 (証券コード:6418)

## 2019年3月期 通期決算説明会資料



欧州最大のゲーミングショー  
‘ICE 2019’に出展  
(2月5～7日, ロンドン)



流通情報システム総合展  
‘リテールテック 2019’に出展  
(3月5～8日, 東京ビックサイト)

2019年5月

・2019年3月期 業績概要	.. 2~6
・セグメント別 業績概要	.. 7~12
・2020年3月期 通期業績予想	..13~18
・利益還元	..19
・中期経営計画ローリングプランⅣ (2019~21年度)	..20~25
・参考資料	..26~39

- ・2019年3月期 通期実績
- ・2020年3月期 通期予想
- ・5月14日に発表いたしました新・中期経営計画  
を中心に、ご説明いたします。

## 2019年3月期 業績概要

### ポイント 前期比 '増収・増益'

- ・増収…「遊技場向機器」セグメントでは、遊技場業界における遊技人口の縮小や規制強化の影響に伴い、顧客であるパチンコホールが設備投資を抑制する動きが継続しましたが、「グローバルゲーミング」セグメントでは、米国での減税施策の相乗効果としてのカジノホールの設備投資の活性化に加え、ドイツにおけるゲーム機に関する基準改定(仕様変更)に伴う駆け込み需要などにより、好調に推移。
- ・増益…「遊技場向機器」セグメントにおいて、棚卸資産の一部について評価額の切り下げを前期に引き続き実施しましたが、「グローバルゲーミング」セグメントでの増収要因などにより、各段階利益は前期比で増益。

2019年3月期の通期の業績としては、売上高は、「遊技場向機器」セグメントにおいては、遊技場業界における規制強化等の影響を受けて、顧客であるパチンコホールの設備投資の抑制傾向が継続しましたが、「グローバルゲーミング」セグメントでは、米国での減税施策の相乗効果としてのカジノホールの設備投資の活性化に加え、ドイツにおけるゲーム機に関する基準改定に伴う駆け込み需要などにより、好調に推移いたしました。

利益面では、「遊技場向機器」セグメントにおいて、財務健全化を目的とした棚卸資産の一部について評価額の切り下げを実施しましたが、「グローバルゲーミング」セグメントを主とした増収要因により、各段階利益では、前期比で増益となりました。

# 2019年3月期 業績概要



単位:百万円

	2018/3 実績	2019/3 実績	前期比		2019/3 2/12修正予想	2/12修正予想比	
			率	増減額		率	増減額
売上高	29,860	31,270	+ 4.7%	+1,409	31,000	+ 0.9%	+ 270
グローバルゲーミング	15,367	18,094	+17.7%	+2,727	17,700	+ 2.2%	+ 394
(内数)プリンター事業	(3,998)	(4,635)	(+15.9%)	(+637)	(4,650)	(△0.3%)	(△ 15)
海外コマース	3,797	3,371	△11.2%	△426	3,550	△5.0%	△179
(内数)プリンター事業	( 176)	( 47)	(△73.3%)	(△129)	( 60)	(△21.7%)	(△ 13)
国内コマース	2,664	2,668	+ 0.2%	+ 4	2,650	+ 0.7%	+ 18
遊技場向機器	8,031	7,136	△11.1%	△895	7,100	+ 0.5%	+ 36
営業利益	4.6% 1,372	6.3% 1,973	+43.8%	+1.7pt + 601	6.1% 1,900	+ 3.8%	+0.2pt + 73
営業外損益	△ 220	+ 291		+ 511	+ 130		+161
為替差損益	△ 254	+184		+438	+ 70		+114
経常利益	3.9% 1,152	7.2% 2,265	+96.7%	+3.3pt +1,113	6.5% 2,030	+11.6%	+0.7pt + 235
特別損益	+1,370	△ 366		△1,715	△ 344		△ 22
当期純利益	3.1% 924	4.1% 1,288	△39.4%	+1.0pt + 364	3.5% 1,100	+17.2%	+0.6pt + 188
平均為替レート	米ドル 112.05円	110.37円		△ 1.68円	110.40円		△ 0.03円
	ユーロ 127.24円	130.05円		+ 2.81円	130.00円		+ 0.05円

2019年3月期 通期実績

日本金銭機械(6418)

3

2019年3月期の業績は、売上高は、前期比4.7%増、14億9百万円増収の312億70百万円となりました。

営業利益は棚卸資産の評価額の切り下げの影響もありましたが、増収効果により、前期比43.8%増、6億1百万円増益の19億73百万円となりました。経常利益は外貨建資産に係る為替差益の計上等により、前期比96.7%増、11億13百万円増益の22億65百万円、当期純利益は前期比3億64百万円増益の12億88百万円となりました。

# 2019年3月期 業績概要



単位:百万円

	2018/3 実績	2019/3 実績	前期比 増減	2019/3 2/12修正予想	2/12修正予想比 増減
営業利益	4.6% 1,372	6.3% 1,973	+1.7pt 601	6.1% 1,900	+0.2pt +73
営業外損益	△220	+291	+511	+130	+161
(主な項目) 為替差損益	△254	+184	+438	+70	+114
経常利益	3.9% 1,152	7.2% 2,265	+3.3pt +1,113	6.5% 2,030	+0.7pt +235
特別損益	+1,370	△345	△1,715	△343	△2
(主な項目) 受取和解金	+2,241	—	△2,241	—	—
訴訟関連費用	△483	—	+483	—	—
(アミューズメント)事業整理損	△235	—	+235	—	—
事業構造改善費用	△133	—	+133	—	—
減損損失	—	△366	△366	△364	△2
税引前利益	8.4% 2,522	6.1% 1,919	△2.3pt △602	5.4% 1,685	+0.7pt +234
(負担税率) 法人税等	63.3% 1,597	32.9% 631	△966	34.4% 580	+51
当期純利益	3.1% 924	4.1% 1,288	+1.0pt 364	3.5% 1,100	+0.6pt +188

決算期末日レート(米ドル)

前期決算期末	112.18円	106.31円	106.31円
	↓△5.87	↓+4.70	↓+1.69
当決算期末	106.31円	111.01円	108.00円

2019年3月期 通期実績

日本金銭機械(6418)

4

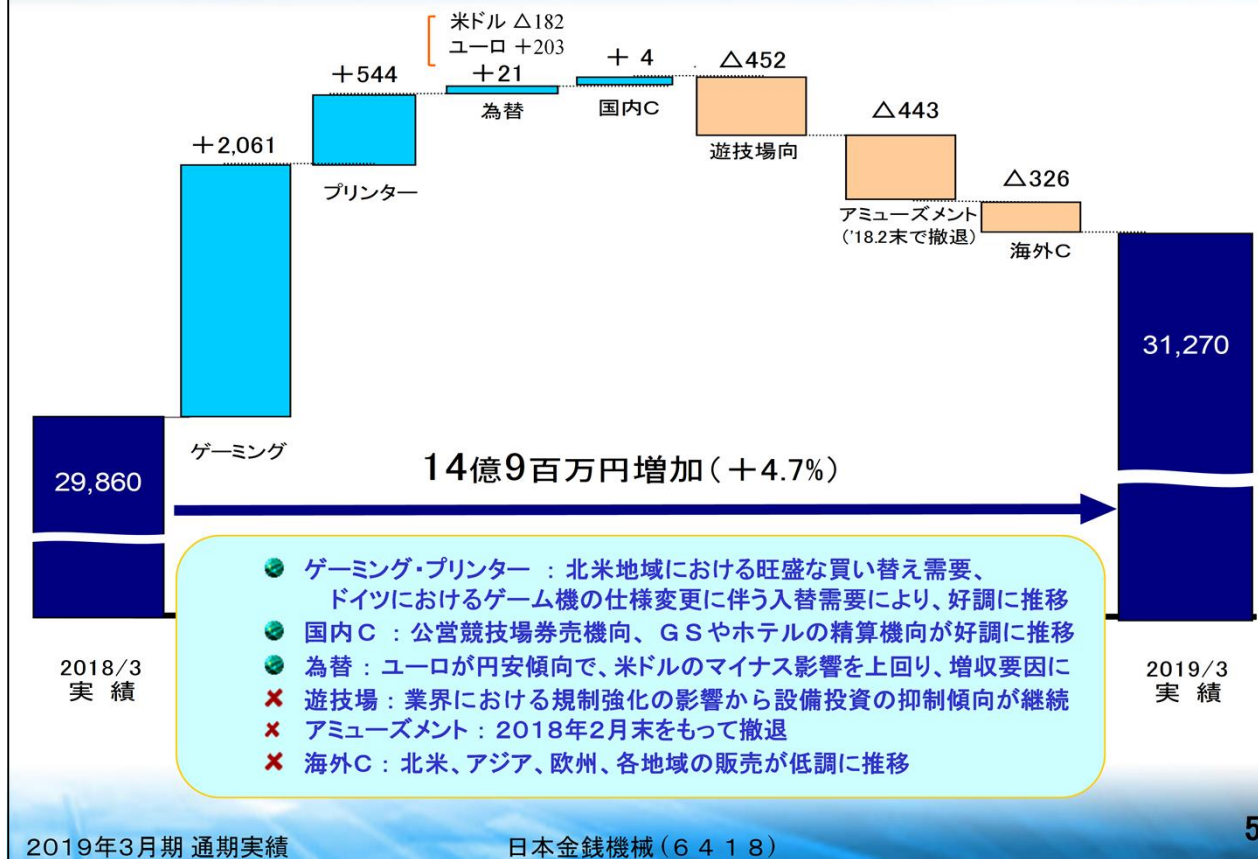
営業利益から純利益までの内容について、ご説明いたします。

営業外収益として、外貨建の資産と負債を決算期末日のレートにより時価評価換算しておりますが、円安の進行により、1億84百万円の差益を計上したこともあり、経常利益は22億65百万円となりました。

しかし、特別損失として、2014年に買収しました米国フューチャーロジック社のロゴに係る商標権3億66百万円を減損損失として計上したこともあり、当期純利益は12億88百万円となりました。

# 売上高増減要因（前期比）

単位：百万円

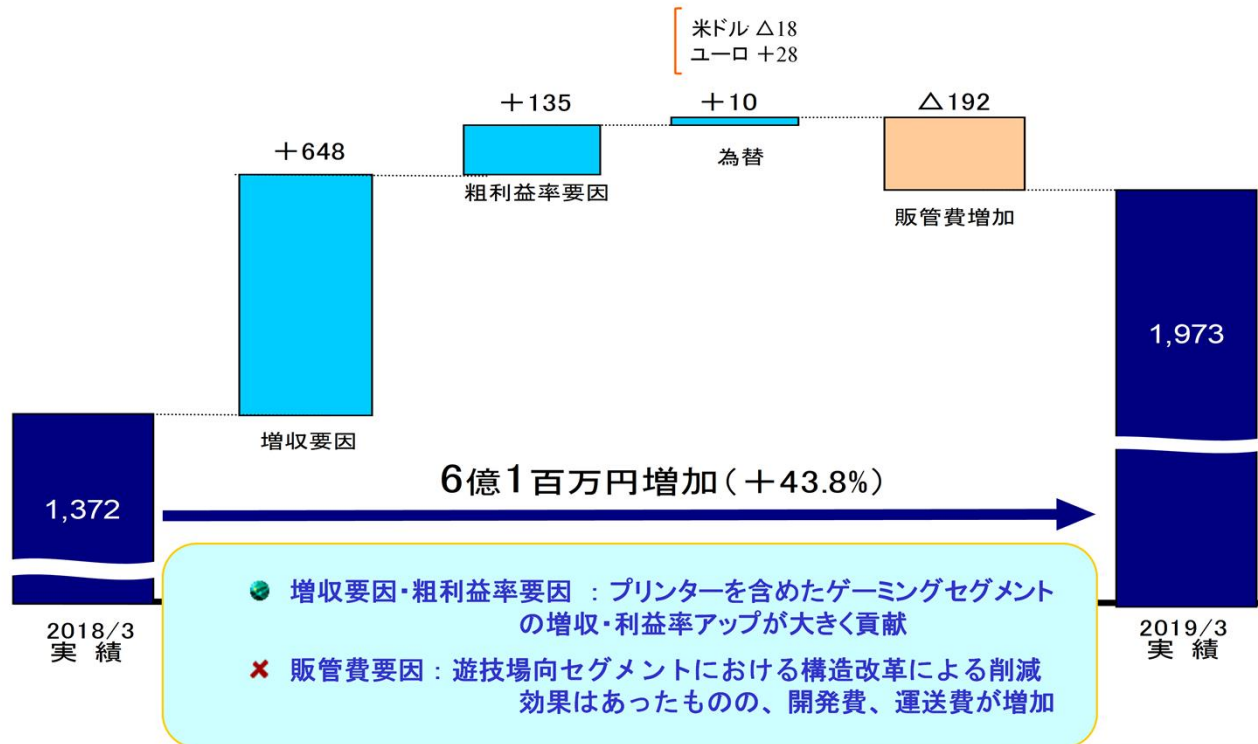


前期比での売上高の主な増減要因を示しております。

「海外コマーシャル」と「遊技場向機器」セグメントでは市場環境の影響等を受けて低調な推移となりましたが、プリンターを含めた「グローバルゲーミング」セグメントが好調に推移したことが増収要因となりました。

# 営業利益増減要因（前期比）

単位：百万円



2019年3月期 通期実績

日本金銭機械 (6418)

前期比での営業利益の主な増減要因を示しております。

「遊技場向機器」セグメントにおいて、当期に取り組みました構造改革による固定費削減効果が発現しましたが、中長期に向けた積極的な開発投資を進めたこともあり、開発費の増加が、減益要因となりました。しかし、「グローバルゲーミング」セグメントでの増収や収益性アップの2つの要因が大きく寄与し、6億1百万円の増益となりました。

# 2019年3月期 セグメント別業績



単位:百万円

		売上高			営業利益(率)		
		2018/3 実績	2019/3 実績	2019/3 2/12修正予想	2018/3 実績	2019/3 実績	2019/3 2/12修正予想
グローバル ゲーミング	外貨(千米ドル)	78,569	98,447	96,200	18.9%	21.9%	19.7%
	外貨(千ユーロ)	51,589	55,584	54,750			
	邦貨(百万円)	15,367	18,094	17,700			
海外 コマーシャル	外貨(千米ドル)	13,894	11,098	11,365	16.5%	△6.8%	1.7%
	外貨(千ユーロ)	17,611	16,502	17,690			
	邦貨(百万円)	3,797	3,371	3,550			
国内 コマーシャル		2,664	2,668	2,650	10.5%	9.3%	9.4%
遊技場向機器		8,031	7,136	7,100	△6.1%	△3.2%	0.1%
調整額		—	—	—	△1,956	△1,773	△1,900
連結		29,860	31,270	31,000	4.6%	6.3%	6.1%
海外売上高	外貨(千米ドル)	92,463	109,545	107,565	(注)表中の「調整額」は、各セグメントに配分していない全社費用です。		
	外貨(千ユーロ)	69,200	72,086	72,440			
		64.2%	68.3%	68.5%			
	邦貨(百万円)	19,164	21,351	21,250			

「グローバルゲーミング」は前期比で増収・増益となり、全社損益に大きく貢献。  
 「海外コマーシャル」は開発費負担の増加により、収益性が低下。  
 「遊技場向機器」においては収益性改善の取り組みの成果は発現したが、棚卸資産の評価額の切り下げ（4億82百万円）により、損失計上。

各セグメントの主な製品は、NO. 37, 38ご参照

2019年3月期 通期実績

日本金銭機械(6418)

セグメント別の業績を表示しております。

「グローバルゲーミング」セグメントが前期比で大幅な増収・増益となりましたが、「遊技場向機器」セグメントでは棚卸資産の評価額の切り下げの影響により、また「海外コマーシャル」セグメントでは新製品に対する研究開発費用が膨らんだことにより、損失を計上することとなりました。



区分		2018/3 実績	2019/3 実績	2019/3 2/12修正予想	比較増減			
					前期比	修正予想比		
北米・中南米	外貨(千米\$)	46,676	59,958	57,300	+13,282	+2,658		
	邦貨(百万円)	5,230	6,617	6,300	+1,387	+317		
アジア・パシフィック	外貨(千米\$)	5,210	4,822	4,800	△388	+22		
	邦貨(百万円)	583	532	530	△51	+2		
欧州・アフリカ・中近東	外貨(千€)	43,658	48,511	47,850	+4,853	+661		
	邦貨(百万円)	5,555	6,308	6,220	+753	+88		
プリンター	外貨(千米\$)	26,683	33,667	34,100	+6,984	△433		
	外貨(千€)	7,931	7,073	6,900	△858	+173		
	邦貨(百万円)	3,998	4,635	4,650	+637	△15		
計	売上高(百万円)	15,367	18,094	17,700	+17.7%	+2,727	+2.2%	+394
	営業利益(%)	18.9%	21.9%	19.7%	+3.0pt	+1,044	+2.2pt	+475
平均為替レート	米ドル	112.05円	110.37円	110.40円	△1.68円	△0.03円		
	ユーロ	127.24円	130.05円	130.00円	+2.81円	+0.05円		

北米地域においては、良好な雇用・所得環境を背景に設備投資意欲が旺盛で、紙幣識別機ユニットやプリンター等の需要が増加。  
 欧州地域では、ドイツにおけるゲーム機の仕様変更（昨年11月～）に伴う買替需要があり、増収。

# 業績概要(プリンター事業)



単位:百万円

※ ゲーミング+コマース合計

	2018/3月期 実績		2019/3月期 実績		前期比
	合計	プリンター	合計	プリンター	プリンター
売上高	29,860	4,174	31,270	4,682	+ 508
売上総利益	38.4%	52.3%	39.2%	54.3%	+2.0%
	11,475	2,183	12,255	2,542	+ 359

## プリンター事業 業績推移 ※ (業績の取り込み時期) : 2014/9~

	2015/3	2016/3 通期			2017/3 通期			2018/3 通期			2019/3 通期			累計
	通期	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期	
外貨(千米\$)	12,615	18,506	19,981	38,487	15,872	18,028	33,900	14,269	13,991	28,260	18,326	15,769	34,095	
外貨(千€)	※				4,415	3,419	7,834	4,010	3,921	7,931	3,555	3,518	7,073	
売上高	1,343	2,230	2,428	4,658	2,323	2,331	4,654	2,090	2,084	4,174	2,453	2,229	4,682	19,511
売上総利益	49.8%	50.8%	49.7%	50.2%	50.3%	52.7%	51.5%	52.8%	51.8%	52.3%	54.4%	54.2%	54.3%	51.9%
	669	1,132	1,207	2,339	1,168	1,228	2,396	1,103	1,080	2,183	1,334	1,208	2,542	10,129

◇平均為替レート

米ドル	106.46	120.50	121.58	121.04	111.79	107.07	109.43	112.13	111.97	112.05	108.52	112.22	110.37
ユーロ	-	-	-	-	124.24	116.90	120.57	122.25	132.23	127.24	130.70	129.40	130.05

2019年3月期 通期実績

日本金銭機械(6418)

区分		2018/3	2019/3	2019/3	比較増減	
		実績	実績	2/12修正予想	前期比	修正予想比
北米・中南米	外貨(千米\$)	8,338	7,559	7,270	△ 779	+ 289
	邦貨(百万円)	934	834	800	△ 100	+ 34
アジア・パシフィック	外貨(千米\$)	3,979	3,111	3,545	△ 868	△ 434
	邦貨(百万円)	445	343	390	△ 102	△ 47
欧州・アフリカ・中近東	外貨(千€)	17,611	16,502	17,690	△ 1,109	△ 1,188
	邦貨(百万円)	2,240	2,146	2,300	△ 94	△ 154
プリンター	外貨(千米\$)	1,577	428	550	△ 1,149	△ 122
	邦貨(百万円)	176	47	60	△ 129	△ 13
計	売上高(百万円)	3,797	3,371	3,550	△ 11.2% △ 426	△ 5.0% △ 179
	営業利益(%)	16.5% 626	△ 6.8% △ 228	1.7% 60	△ 23.3pt △ 855	△ 8.5pt △ 288
平均為替レート	米ドル	112.05円	110.37円	110.40円	△ 1.68円	△ 0.03円
	ユーロ	127.24円	130.05円	130.00円	+ 2.81円	+ 0.05円

北米地域では、金融OEM向けが減少傾向。中国を中心とするアジア地域では、特に流通分野を中心にキャッシュレス決済が浸透し、現金処理機器の需要は軟調に推移。  
 欧州地域では、ロシア市場における品質問題により、減収。  
 北米地域における医療向け及び駐車場向けプリンター製品の販売が減少。  
 収益面では、将来における成長確保のために継続している開発費の増加（約6億70百万円）により、収益性が低下。

	2018/3 実績	2019/3 実績	2019/3 2/12修正予想	比較増減	
				前期比	修正予想比
売上高	2,664	2,668	2,650	+ 0.2%	+ 0.7%
営業利益	10.5% 280	9.3% 248	9.4% 250	△ 1.2pt △ 31	△ 0.1pt △ 2

セルフガソリンスタンド精算機向、公営競技場券売機、釣銭機、バスの料金箱といった既設案件の入替需要に加えて、ホテルのチェックイン精算機向の新規需要があり、増収。



硬貨ユニット



紙幣ユニット



区 分	2018/3 実 績	2019/3 実 績	2019/3 2/12修正予想	比 較 増 減	
				前 期 比	修 正 予 想 比
遊技場向	7,588	7,136	7,100	$\Delta 6.0\%$ $\Delta 452$	$+ 0.5\%$ $+ 36$
アミューズメント	443	—	—	$\Delta 443$	—
売上高	8,031	7,136	7,100	$\Delta 11.1\%$ $\Delta 895$	$+ 0.5\%$ $+ 36$
営業利益	$\Delta 6.1\%$ $\Delta 489$	$\Delta 3.2\%$ $\Delta 228$	$0.1\%$ $10$	$+ 2.9pt$ $+ 261$	$\Delta 3.3pt$ $\Delta 238$

(注) 2018年2月末をもって、「アミューズメント事業(ゲームセンター2店舗を運営)」から撤退いたしました。

遊技場業界における規制強化の影響を受け、設備投資に対する慎重な姿勢が継続しており、メダル自動補給システムなどの主力製品の販売が低調に推移。  
 更に、2018年2月末に撤退したアミューズメント事業での減収も影響。  
 収益面では、当セグメントにおいて収益を確保できる体制への構造改革を進め、固定費の削減等による改善効果が発現し始めておりますが、棚卸資産の一部について、評価額の切り下げを行ったことで、損失計上となる。

# 2020年3月期 通期業績予想



単位：百万円

	2019年3月期		2020年3月期		通期比較	
	2Q累計実績	通期実績	2Q累計予想	通期予想	率	増減額
売上高	15,585	31,270	14,900	28,500	△ 8.9%	△2,770
グローバルゲーミング	8,953	18,094	8,400	15,450	△14.6%	△2,644
(内数) プリンター事業	(2,427)	(4,635)	(2,200)	(4,300)	(△ 7.2%)	(△335)
海外コマース	1,943	3,371	1,650	3,250	△ 3.6%	△ 121
(内数) プリンター事業	( 26)	( 47)	( 30)	( 60)	(△27.7%)	(+ 13)
国内コマース	1,341	2,668	1,300	2,750	+ 3.1%	+ 82
遊技場向機器	3,348	7,136	3,550	7,050	△ 1.2%	△ 86
営業利益	6.4%	6.3%	4.7%	3.5%	△49.3%	△2.8pt
	996	1,973	700	1,000		△973
経常利益	9.3%	7.2%	4.7%	3.5%	△55.9%	△3.7pt
	1,450	2,265	700	1,000		△1,265
純利益	6.7%	4.1%	3.0%	2.5%	△45.7%	△1.6pt
	1,047	1,288	450	700		△588
平均為替レート	米ドル	108.52円	110.37円	110.00円		△ 0.37円
	ユーロ	130.70円	130.05円	130.00円		△ 0.05円

## ポイント

「グローバルゲーミング」において、ドイツでの駆け込み需要の反動減(約20億円)が見込まれるとともに、米国でのカジノホールの設備投資の活況が沈静化する見込であり、減収の予想。利益面では、減収要因に加えて、新規市場開拓など、成長確保に向けて継続している開発費の増加(約3億20百万円、スライドNO.30ご参照)により、減益を予想。

2019年3月期 通期実績

日本金銭機械(6418)

13

進行年度の業績予想について、ご説明いたします。

海外ゲーミング市場では、前期におけるドイツでの駆け込み需要の反動減が見込まれるとともに、米国の設備投資に関しても沈静化の方向に進むものと予想されることから、売上高は、前期比8.9%減、27億70百万円減収の285億円となる見込みをしております。

このように大幅な減収が予想されるなかではありますが、新しい需要の創出、喚起も視野に入れた製品開発力の強化も重要なテーマであると考え、スライドNO. 30に記載しておりますように、研究開発費を前期比で約3億円増加させることもあり、営業利益、経常利益はともに10億円に、また当期純利益は前期比45.7%減の7億円になる予想をしております。

# 2020年3月期 セグメント別業績予想



単位:百万円

		売上高			営業利益(率)		
		2018/3 実績	2019/3 実績	2020/3 予想	2018/3 実績	2019/3 実績	2020/3 予想
グローバル	外貨(千米ドル)	78,569	98,447	93,750	18.9%	21.9%	16.8%
	外貨(千ユーロ)	51,589	55,584	39,650			
ゲーミング	邦貨(百万円)	15,367	18,094	15,450	2,911	3,955	2,600
海外	外貨(千米ドル)	13,894	11,098	11,350	16.5%	△6.8%	△5.7%
	外貨(千ユーロ)	17,611	16,502	15,400			
コマーシャル	邦貨(百万円)	3,797	3,371	3,250	626	△228	△185
国内					10.5%	9.3%	8.7%
コマーシャル		2,664	2,668	2,750	280	248	240
遊技場向機器		8,031	7,136	7,050	△6.1%	△3.2%	3.5%
					△489	△228	250
調整額		—	—	—	△1,956	△1,773	△1,905
連結		29,860	31,270	28,500	4.6%	6.3%	3.5%
					1,372	1,973	1,000
海外売上高	外貨(千米ドル)	92,463	109,545	105,100	(注)表中の「調整額」は、各セグメントに配分していない全社費用です。		
	外貨(千ユーロ)	69,200	72,086	55,050			
		64.2%	68.3%	65.6%			
	邦貨(百万円)	19,164	21,351	18,700			

2019年3月期 通期実績

日本金銭機械(6418)

14

セグメント別の通期の業績予想を表示しております。

「海外コマーシャル」セグメントにおいては、引き続き、積極的な開発投資を予定していることもあり、営業損失を見込んでおります。

# 2020年3月期 セグメント別予想

グローバルゲーミング



区分		2019/3		2020/3		比較増減 前期比
		実績		予想		
北米・中南米	外貨(千米\$)	59,958		57,750		△2,208
	邦貨(百万円)	6,617		6,350		△267
アジア・パシフィック	外貨(千米\$)	4,822		5,000		+178
	邦貨(百万円)	532		550		+18
欧州・アフリカ・中近東	外貨(千€)	48,511		32,700		△15,811
	邦貨(百万円)	6,308		4,250		△2,058
プリンター	外貨(千米\$)	33,667		31,000		△2,667
	外貨(千€)	7,073		6,950		△123
	邦貨(百万円)	4,635		4,300		△335
計	売上高(百万円)	18,094		15,450		△14.6% △2,644
	営業利益(%)	21.9%	3,955	16.8%	2,600	△5.1pt △1,355
平均為替レート	米ドル	110.37円		110.00円		△0.37円
	ユーロ	130.05円		130.00円		△0.05円

前期比 △26億円 (△14.6%)

- ※ 北米 : 米国での設備投資の活況は沈静化の方向に進む見込み
- ※ 欧州 : 前期におけるドイツでの駆け込み需要の反動減
- ※ プリンター : 北米市場では上記と同様の要因により、減収の見込み

## 〈当セグメントの取り組み〉

- ・カジノ向システム製品 (FUZION)、
- ゲーミング向デジタルディスプレイ製品の拡販に注力
- ・リプレース市場の確保

FUZION



ベッティングルーム向け大型LEDディスプレイ





# 2020年3月期 セグメント別予想

海外コマース



区分		2019/3 実績	2020/3 予想	比較増減 前期比
北米・中南米	外貨(千米\$)	7,559	5,800	△1,759
	邦貨(百万円)	834	640	△ 194
アジア・ パシフィック	外貨(千米\$)	3,111	5,000	+1,889
	邦貨(百万円)	343	550	+ 207
欧州・アフリ カ・中近東	外貨(千€)	16,502	15,400	△1,102
	邦貨(百万円)	2,146	2,000	△ 146
プリンター	外貨(千米\$)	428	550	+ 122
	邦貨(百万円)	47	60	+ 13
計	売上高(百万円)	3,371	3,250	△ 3.6% △ 121
	営業利益(%)	△6.8% △ 228	△5.7% △ 185	+1.1pt + 43
平均為替レート	米ドル	110.37円	110.00円	△ 0.37円
	ユーロ	130.05円	130.00円	△ 0.05円

前期比 △1.2億円 (△3.6%)

✖ 北米 : 金融向が減少傾向

○ アジア : インフラ投資、鉄道需要等の拡大に期待

✖ 欧州 : 品質問題発生により、低調に推移

## 〈当セグメントの取り組み〉

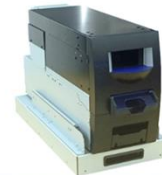
### ・新製品の拡販

- ・MRXによる交通(鉄道)市場の開拓を継続
- ・RDMによる納金機・流通市場への拡販



鉄道券売機向 (MRX)

納金機、流通向 (RDM)



(百万円)

	2019/3		2020/3		比較増減	
	実績		予想		前期比	
売上高	2,668		2,750		+3.1%	+82
営業利益	9.3%	248	8.7%	240	△0.6pt	△8

前期比 +0.8億円 (+3.1%)

- : ガソリンスタンド向需要がやや減少傾向になる見込ではあるものの、公営競技場向、釣銭機、バス精算機、ホテル向精算機は引き続き、堅調に推移する見込み

### 〈当セグメントの取り組み〉

- ・新規顧客の開拓、新規案件の獲得
- ・新規商材(分煙ボックス(パチンコホール以外への)等)の販売推進

分煙ボックス



(百万円)

	2019/3 実績	2020/3 予想	比較増減	
			前期比	
売上高	7,136	7,050	△ 1.2%	△ 86
営業利益	△ 3.2% △ 228	3.5% 250	+ 6.7pt	+ 478

前期比 △0.8億円 (△1.2%)

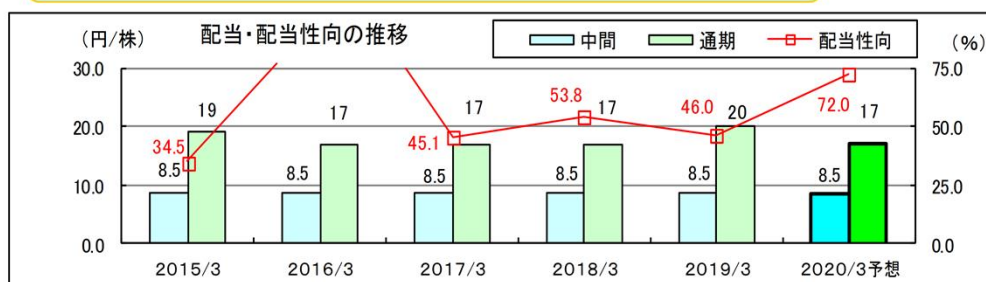
- ✖ 国際的イベント(G20、ラグビーW杯)による機器入替自粛期間の設定
- ✖ ギャンブル等依存症対策強化による影響
- ✖ 消費税率引き上げによる影響

上記のような要因により、ホールの経営環境は引き続き厳しい状態が続くものと思われ、設備投資意欲に改善がみられないという市場環境を想定。

〈当セグメントの取り組み〉

- ・改正健康増進法施行に対応した新製品(分煙ボックス)の販売
- ・ギャンブル等依存症対策に対応した新製品(のめり込み防止機能付き玉・メダル貸機)の販売

## 2020年3月期は、年間普通配当17円を予想



※2015/3には2円、2019/3には3円の記念配当を含む

1株当たり利益推移(円)	55.1	13.3	37.7	31.6	43.5	23.6
配当性向推移(%)	34.5	128.1	45.1	53.8	46.0	72.0
純資産配当率(%)	1.7	1.8	1.6	1.5	1.8	1.6

### 《業績連動型株主還元を継続》

・配当性向(連結) 30%以上 ・純資産配当率 2.0%以上を目指す

配当性向を30%以上とし、連結業績に連動した利益還元を行い、  
且つ安定的な配当の維持に引き続き努める。

2020年3月期の配当につきましては、中間期8円50銭、年間での配当額は1株につき17円を予想しており、2019年3月期からは、記念配当3円だけ減配となります。

内部留保金につきましては、自己株式取得などの株主還元取得などの株主還元策への支出の検討を継続するとともに、今後の事業展開に有益な業務・資本提携やM&Aなどの戦略的投資、新規市場開拓に必要な人材・研究開発投資など、将来に向けた成長確保のための費用として有効に活用してまいります。

# 中期経営計画ローリングプランⅣ (2019～21年度)

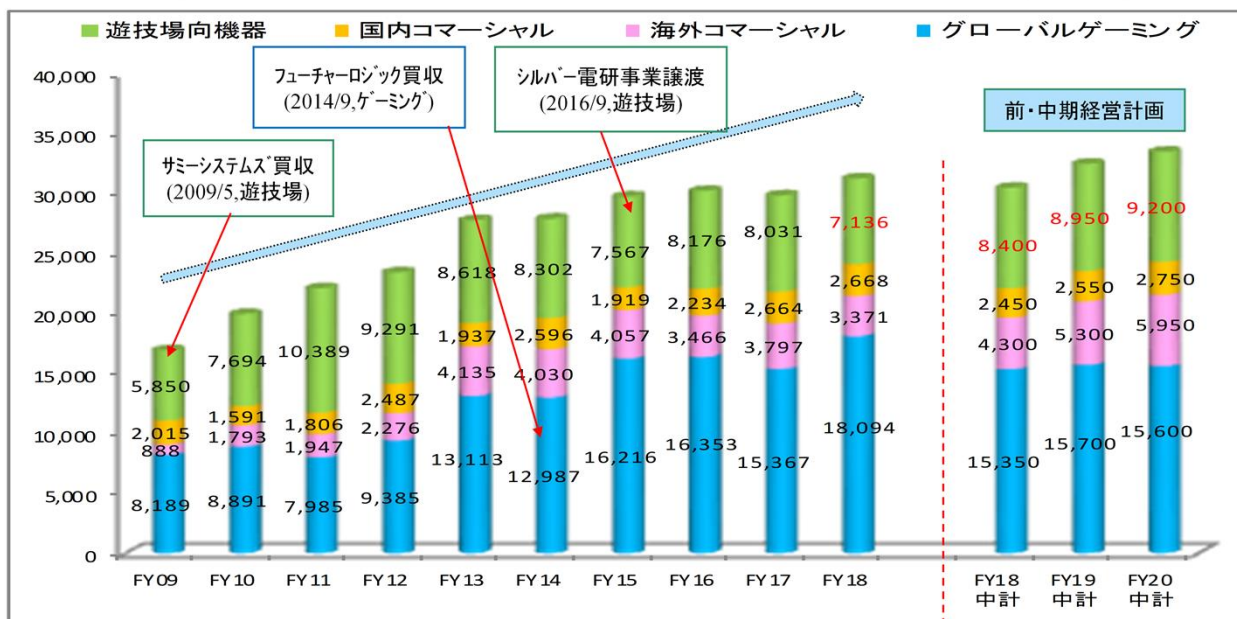
2019年3月期 通期実績

日本金銭機械(6418)

20

当社グループは2017年11月に発表いたしました『中期経営計画ローリングプランⅢ』について見直しを行い、進行年度を初年度とする3ヶ年の『中期経営計画ローリングプランⅣ』を策定し、5月14日に発表いたしました。

# 前・中期経営計画の振り返り



	FY09	FY10	FY11	FY12	FY13	FY14	FY15	FY16	FY17	FY18
売上高	16,945	19,970	22,129	23,441	27,806	27,917	29,761	30,230	29,860	31,270
営業利益	△ 363	539	1,052	1,330	1,761	1,285	1,497	1,752	1,372	1,973
純利益	△ 940	666	778	1,432	1,418	1,486	357	1,012	924	1,288

	FY18 中計	FY219 中計	FY20 中計
売上高	30,500	32,500	33,500
営業利益	1,300	1,750	2,000
純利益	800	1,150	1,300

2019年3月期 通期実績

日本金銭機械(6418)

## 事業環境認識

### ■既存市場の動向

- ・海外ゲーミング市場 … 北米・欧州市場はともに、一旦、特需的な需要は収束するものの、北米市場では、買替サイクルが2021年度に向けて回復トレンドを見込む
- ・国内遊技場市場 … 2021年度にかけて、停滞傾向は継続し、現状維持を見込む

### ■競合各社との競争の激化

### ■決済機能に関する技術革新の進行

### ■国内カジノの開設、新紙幣・硬貨の刷新

上記項目に伴うビジネスチャンスによる効果は、新・中計においては織り込んでおりません

## 重点施策

### ■ 新規事業領域の拡大

- ・ 販路の開拓を通じた拡大  
グローバルコマースの強化により、市場、地域や顧客層を拡大
- ・ 新製品の開発による新市場の創出  
開発途上にあるテーマの早期上市により、売上貢献を加速

### ■ 既存事業領域の収益性の改善

停滞する売上規模を前提として、収益構造・体質の改善に全部門で一貫して取り組む

### ■ 新しい事業ポートフォリオの創造

第4の収益の柱の構築を目指し、重点投資

- ・ 社内のリソースを使いながら、関連分野・周辺分野でのビジネス開拓を進める
- ・ 外部技術・人材を取り込み、最大限のシナジーを求め、M&Aを模索・推進



# 新・中期経営計画 概要



## 開発投資計画

### 研究開発費対連結売上高比率 8%台

新規事業及び新しいビジネスモデルの構築を目指し、重点投資を行い、新製品、新事業の創造に取り組む。

(百万円)

	実績				
	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
研究開発費	1,433	1,526	1,624	1,810	2,182
対売上高比率	5.1%	5.1%	5.4%	6.1%	7.0%

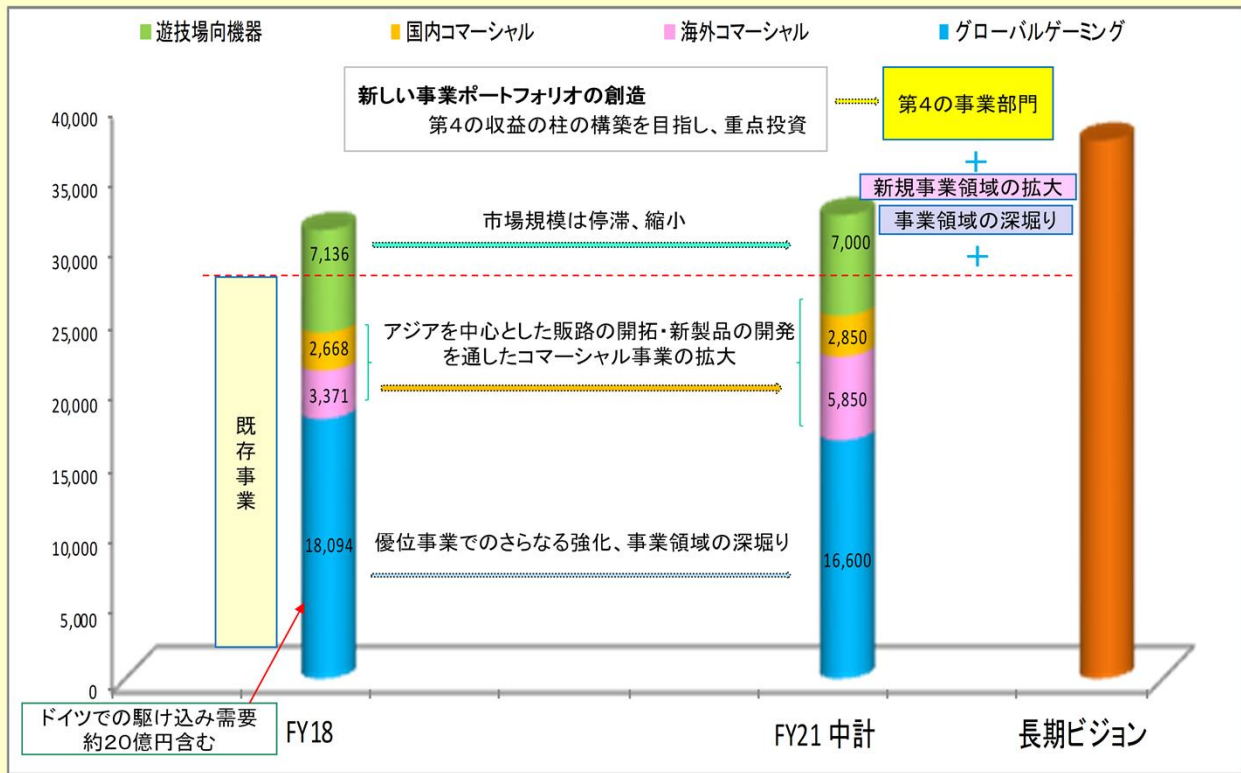
新・中計期間		
2019年度	2020年度	2021年度
2,500~2,700		
8%台		

## 株主還元

配当性向は当期純利益の30%以上として、業績に連動した利益還元を行い、且つ安定的な配当の維持に努めていくが、株主還元の更なる充実を目指し、配当性向の引き上げの検討も進める。

また、株価水準、キャッシュ・フローの状況等を踏まえ、自己株式取得を機動的に実施し、株主還元の充実を図る。

# 新・中期経営計画 概要

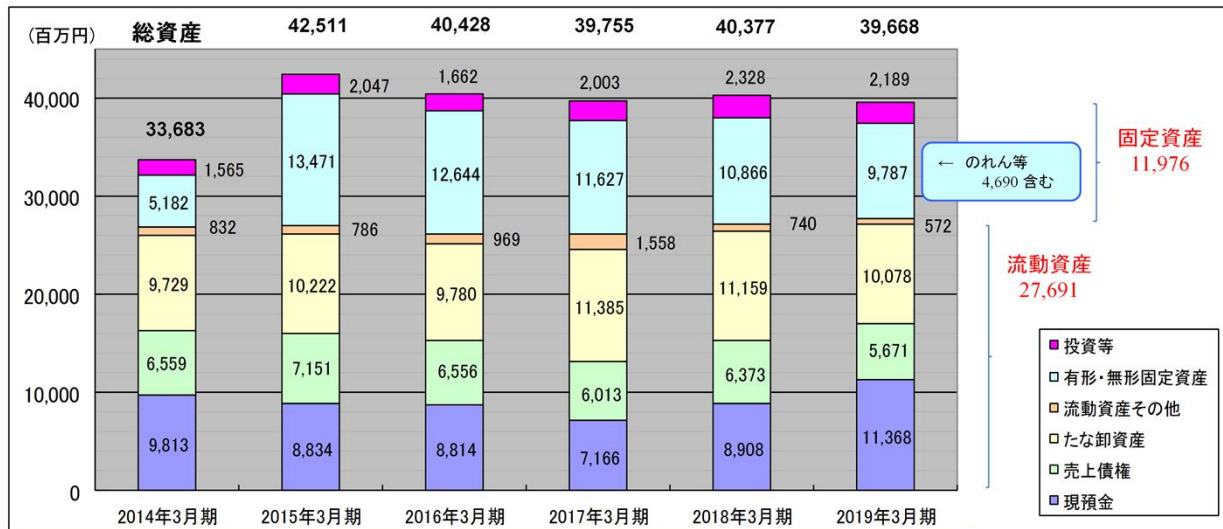


2019年3月期 通期実績

・貸借対照表	..27,28
・キャッシュ・フロー	..29
・設備投資額、減価償却費、研究開発費の推移	..30
・為替影響	..31
・半期別業績推移（2017/3～19/3月期）	..32
・四半期別・セグメント別売上高推移 （2017/3～19/3月期）	..33
・遊技場市場関連情報	..34
・海外カジノ市場の状況	..35
・国内カジノ開業までの流れ	..36
・事業セグメントの概要	..37,38
・世界のゲーミング市場における高いブランド力	..39

資産の部 : △7億8百万円 (前期末比)

流動資産 + 509 : 現預金 +2,459、売上債権 △701、たな卸資産 △1,080  
 固定資産 △ 1,218 : 固定資産 △1,079、投資その他 △139



決算期末日レート

米ドル	102.91	120.28	112.69	112.18	106.31	111.01
ユーロ	141.60	130.38	127.68	119.81	130.81	124.66

2019年3月末の資産合計は、前期末と比較して、7億8百万円減少し、396億68百万円となりました。

主な増減の内容としては、

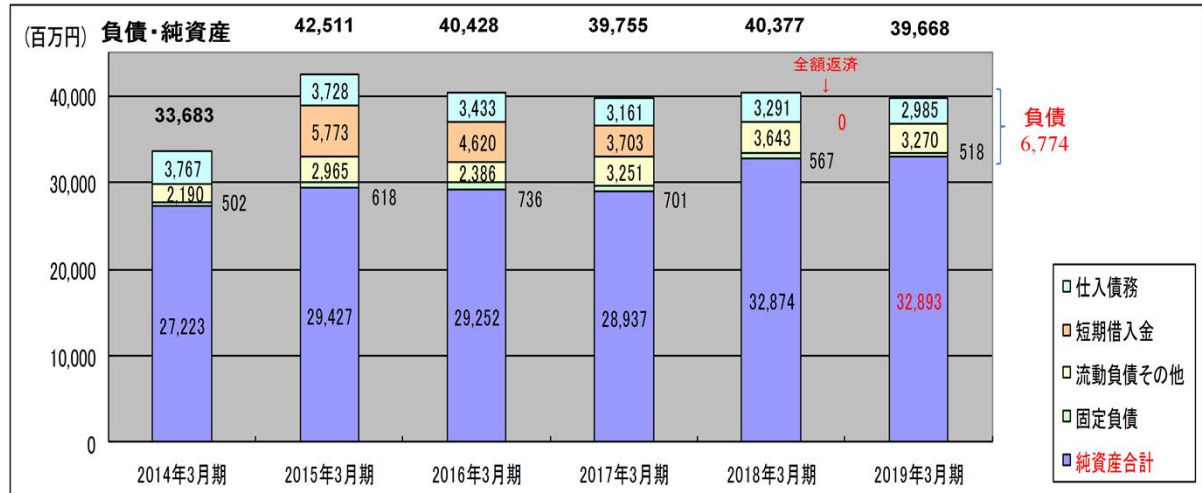
流動資産では、「売上債権」が7億1百万円、「たな卸資産」が10億80百万円減少しましたが、「現預金」が24億59百万円増加したこともあり、前期末比5億9百万円増加の276億91百万円となりました。

固定資産では、「商標権」を減損処理したこともあり、無形固定資産で11億21百万円の減少、また「投資その他」合計で1億39百万円減少し、固定資産合計としては12億18百万円の減少となりました。

**負債：△7億28百万円（前期末比）**

流動負債△679：仕入債務△306、事業構造改善引当金△133

**純資産：+19百万円：利益剰余金+784、有価証券評価差額金△180、  
為替換算調整勘定△571**



自己資本比率(%) **80.8**    **69.2**    **72.3**    **72.7**    **81.4**    **82.9**

1株当たり純資産(円) **1,009.07**    **1,090.80**    **1,084.29**    **1,080.96**    **1,108.57**    **1,109.70**

2019年3月期 通期実績

日本金銭機械(6418)

負債は、前期末と比較して7億28百万円減少して、67億74百万円となりました。

増減の主な内容としては、「仕入債務」が3億6百万円、「事業構造改善引当金」が1億33百万円それぞれ減少いたしました。

純資産は、「その他有価証券評価差額金」が1億80百万円、在外子会社の時価評価による「為替換算調整勘定」が5億71百万円減少しましたが、利益剰余金が7億84百万円増加したことにより、19百万円増加の328億93百万円となりました。

尚、自己資本比率は82.9%と前期末と比べて、1.5ポイント増加いたしました。

- ・営業CF : 税金等調整前純利益 1,919、償却費 1,129
- ・投資CF : 有形固定資産取得 △539、定期預金預入 △111
- ・財務CF : 配当金支払 △502

	'14/3月期	'15/3月期	'16/3月期	'17/3月期	'18/3月期	'19/3月期
営業活動によるCF	2,098	1,801	1,758	611	3,461	3,601
投資活動によるCF	△ 545	△ 6,991	△ 242	△ 293	△ 694	△ 556
財務活動によるCF	△ 626	5,181	△1,414	△1,688	△ 940	△ 535
現金及び同等物に係る換算差額	579	334	△ 121	△ 278	△ 84	△ 50
現金及び同等物の増加額	1,506	325	△ 19	△ 1,647	1,741	2,459
現金及び同等物 期末残高	8,488	8,814	8,794	7,146	8,888	11,348
<b>フリー・キャッシュ・フロー</b>	<b>1,553</b>	<b>△ 5,190</b>	<b>1,516</b>	<b>318</b>	<b>2,766</b>	<b>3,045</b>

※フリー・キャッシュ・フロー = 営業活動によるキャッシュ・フロー + 投資活動によるキャッシュ・フロー

キャッシュ・フローの推移は、下記の資料のとおりでございます。

◇営業活動CF +36億1百万円

- ・主な増減要因は、税金等調整前純利益 19億19百万円、  
減価償却費(のれん含む) 11億29百万円、  
運転資本(売上債権・仕入債務・在庫)の増減  
+12億11百万円  
法人税の支払(△) 9億52百万円

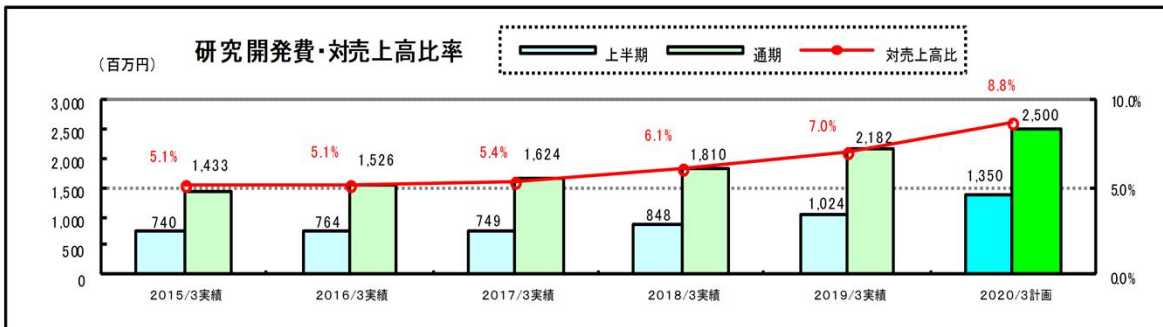
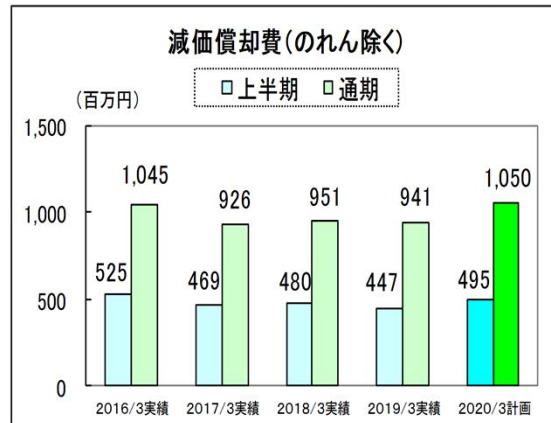
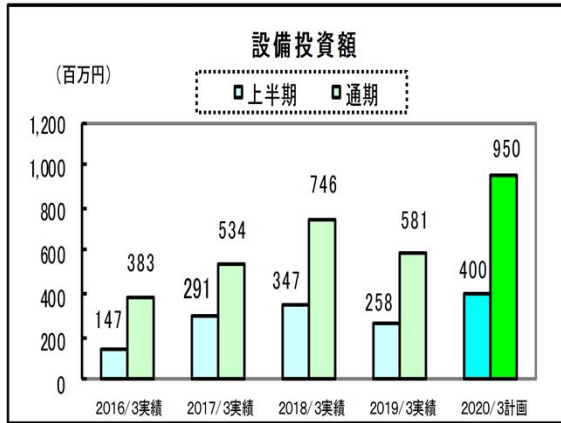
◇投資活動CF △5億56百万円

有形固定資産の取得 5億39百万円

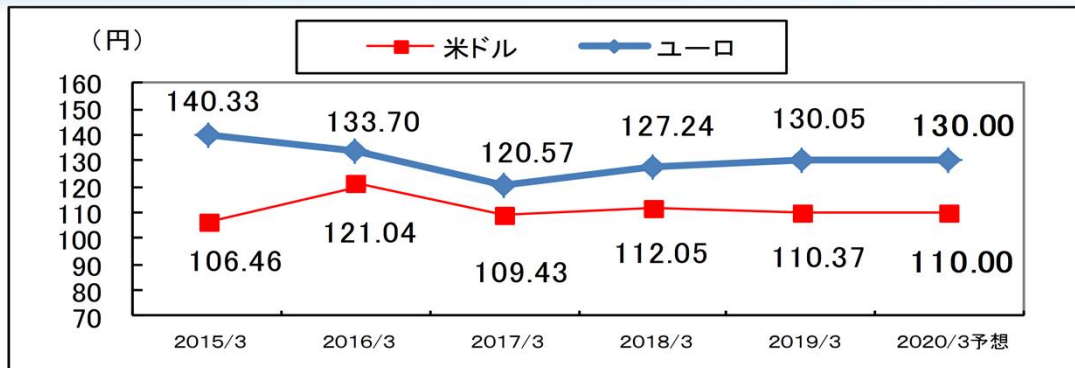
◇財務活動CF △5億35百万円

配当金支払 △5億2百万円

◇現金同等物の換算差額 △50百万円



設備投資額、減価償却費、研究開発費の推移と進行年度の予想を表示しております。



1円当たりの営業利益への影響額 (年間：百万円) ※円安が業績にプラスに

	2015/3	2016/3	2017/3	2018/3	2019/3	2020/3
米ドル	18	11	21	23	32	29
ユーロ	7	6	5	9	7	4

◇期中平均レート (円)

	2019/3実績	2020/3予想	為替感応度 ~売上高~(百万円)
米ドル	110.37	110.00	105
ユーロ	130.05	130.00	55

◇期末日レート (円)

	2019/3期末	2020/3 期末予想	為替感応度 ~営業外~(百万円)
米ドル	111.01	110.00	43
ユーロ	124.66	130.00	3

2020年3月期通期の期中平均レートは、米ドル 110円、ユーロ 130円を予想しております。



	2017/3 実績			2018/3 実績			2019/3 実績		
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期
売上高	15,298	14,932	30,230	14,995	14,865	29,860	15,585	15,685	31,270
売上原価	9,338	8,952	18,290	9,090	9,294	18,384	9,696	9,318	19,014
売上総利益	39.0% 5,959	40.0% 5,980	39.5% 11,940	39.4% 5,905	37.5% 5,571	38.4% 11,475	37.8% 5,889	40.6% 6,367	39.2% 12,255
販管費	4,812	5,375	10,187	4,941	5,162	10,103	4,893	5,390	10,281
営業利益	7.5% 1,147	4.1% 605	5.8% 1,752	6.4% 963	2.8% 409	4.6% 1,372	6.4% 996	6.2% 977	6.3% 1,973
営業外損益	△ 581	362	△ 219	100	△ 321	△ 220	454	△ 162	291
経常利益	3.7% 566	6.5% 967	5.1% 1,533	7.1% 1,064	0.6% 88	3.9% 1,152	9.3% 1,450	5.2% 815	7.2% 2,265
特別損益	311	10	320	△ 223	1,594	1,370	13	△ 360	△ 346
税引前利益	877	977	1,854	840	1,682	2,522	1,464	455	1,919
法人税等	473	368	842	386	1,211	1,597	417	214	630
純利益	2.6% 403	4.1% 609	3.3% 1,012	3.0% 453	3.2% 471	3.1% 924	6.7% 1,047	1.5% 241	4.1% 1,288

平均為替レート

米ドル	111.79円	107.07円	109.43円	112.13円	111.97円	112.05円	108.52円	112.22円	110.37円
ユーロ	124.24円	116.90円	120.57円	122.25円	132.23円	127.24円	130.70円	129.40円	130.05円

2019年3月期 通期実績

日本金銭機械(6418)

32

過去3年間の業績を上半期と下半期に分けて、表示しております。

	2017/3 実績					2018/3実績					2019/3実績				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
売上高	7,398	7,900	7,738	7,194	30,230	7,140	7,855	7,640	7,225	29,860	7,713	7,872	8,023	7,662	31,270
グローバルゲーム	4,124	4,415	3,903	3,911	16,353	3,722	4,038	3,570	4,036	15,367	4,341	4,611	4,326	4,815	18,094
(内数)プリンター	(1,097)	(1,044)	(1,114)	(1,147)	(4,402)	( 935)	(1,054)	( 854)	(1,155)	(3,998)	(1,141)	(1,286)	(1,015)	(1,193)	(4,635)
海外コマース	876	1,008	810	771	3,466	928	1,146	846	876	3,797	884	1,058	736	692	3,371
(内数)プリンター	—	( 182)	( 69)	( -)	( 252)	( 15)	( 86)	( 51)	( 24)	( 176)	( 11)	( 15)	( 15)	( 6)	( 47)
国内コマース	511	467	379	877	2,234	485	644	753	782	2,664	681	660	797	530	2,668
遊技場向機器	1,885	2,010	2,647	1,634	8,176	2,004	2,027	2,469	1,531	8,031	1,806	1,541	2,164	1,625	7,136

過去3年間のセグメント別売上高を四半期ごとに表示しております。

・市場情報

民間の調査機関のレポートによると、2018年12月末のパチンコホール経営企業数は前年末比241社減の3,003社になった模様。過去15年以上にわたって減少傾向が続いているが、2013年以降は100社を超えるペースで減少。規制強化等により、今後もこの傾向は継続すると予測されている。

・パチンコホール売上高

昨年の7月度まで52ヶ月連続で対前年同月比マイナスが続いていたが、8月度以降は上昇に転じつつある。

	前年度比増減		前年同期間比増減	
2015年度	△ 6.4%	⇒	2018年度 1～3月累計	△ 5.8%
2016年度	△ 10.3%		2018年度 4～6月累計	△ 6.0%
2017年度	△ 4.2%		2018年度 7～9月累計	+ 0.1%
2018年度	△ 2.7%		2018年度 10～12月累計	+ 0.9%
			2019年度 1～3月累計	+ 3.1%

(注) ・『経済産業省 特定サービス産業動態統計調査』より

・遊技場関連統計

平成29年度の市場規模は20兆円の大台割れ、また参加人口は2年連続で過去最低値を更新。尚、市場規模に関しては、一昨年発表の平成28年度数値が21兆6,260億円から、20兆4,180億円に修正された。

	市場規模 (億円)	参加人口 (万人)	ホール数 増減率 (店)	パチンコ設置台数 (万台)	パチスロ設置台数 (万台)	合計 (万台)	1店舗当たり平均 遊技設置台数 (台)
平成26年度	245,040	1,150	-2.2% 11,627	64.3% 295	35.7% 164	459	395.4
平成27年度	232,290	1,070	-2.7% 11,310	63.7% 291	36.3% 166	458	405.0
平成28年度	204,180	940	-2.9% 10,986	62.6% 283	37.4% 169	452	411.9
平成29年度	195,400	900	-6.3% 10,596	62.0% 274	38.0% 168	443	418.7
平成30年度	—	—	-5.1% 10,060	61.3% 263	38.7% 166	430	427.7

(注) ・市場規模、参加人口については、7月上旬公表のため空欄。

・ホール数、パチンコ・パチスロ設置台数等は年末時点の数値、『警察庁保安課まとめ』より

## 1. 米国

### ◇北米 Commercial&Tribal カジノ売上高推移

(単位: billion \$)

	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	前年比
Commercial	34.3	34.6	35.6	37.4	37.5	38.5	39.9	40.4	41.5	42.8	+3.1%
Tribal	26.5	26.5	27.2	27.9	28.0	28.5	29.9	31.2	32.4	33.0	+1.9%
計	60.8	61.1	62.8	65.4	65.5	67.0	69.8	71.6	73.9	75.8	+2.6%

[出所: 『Center For Gaming Research』、 『National Indian Gaming Commission』]

### ◇ネバダ州 カジノ売上高、ラスベガス訪問者数推移

(単位: billion \$、万人)

	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	前年比
ネバダ州	10.3	10.4	10.7	10.8	11.1	11.0	11.1	11.2	11.5	11.9	+3.1%
訪問者数	3,635	3,733	3,892	3,972	3,967	4,112	4,231	4,293	4,220	4,211	-0.2%

[出所: 『US Gaming Research Reports』、 『LAS VEGAS Convention And Visitors』]

## 2. マカオ

### ◇マカオ カジノ売上高推移

(単位: 億ハク)

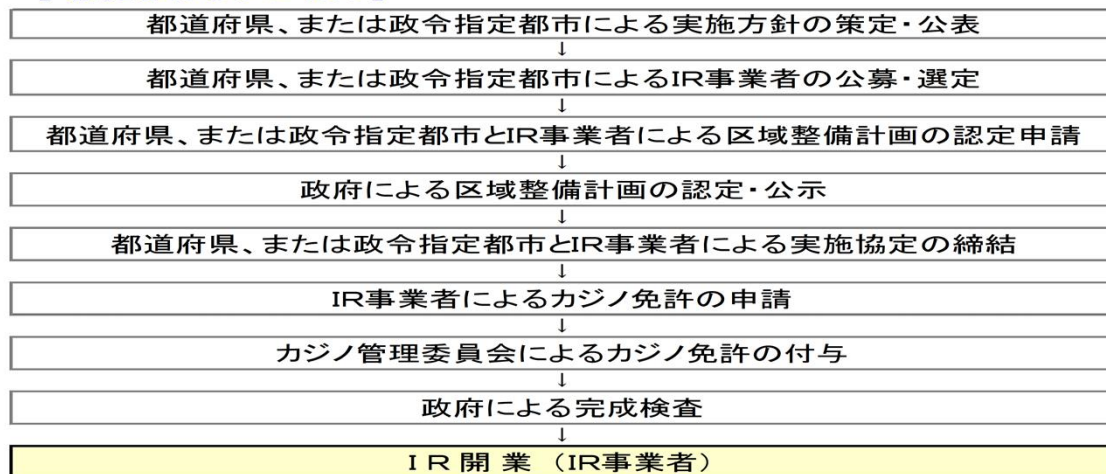
	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019/1~4月 累計実績
売上高	3,041.39	3,606.49	3,515.21	2,308.40	2,232.10	2,657.43	3,028.46	997.39
前年比	+13.5%	+18.6%	△ 2.6%	△34.3%	△ 3.3%	+19.1%	+14.0%	△ 2.4%

[出所: マカオ政府のカジノ監理部門:博彩監察協調局(DICJ)]

(前年同期間比)

開業までのプロセスとしては、まず『カジノ管理委員会』が設置されたあと、政府による「基本方針の策定・公表」があり、そのあと、大まかには下記のようなフローが想定されており、2020年代半ばにも国内初のIR施設が開業する見込みである。

【想定されるプロセス】

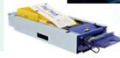


大阪ではダブル選を維新が制したことを受けて、大阪府と市で組織する大阪府・大阪市IR推進局は4月24日に統合型リゾート設置に向けた事業者からのコンセプトの提案の募集要項を公表した。2020年春にIR事業者を選び、22年春に着工すれば、3年と言われる工期を確保することができることから、万博開催前の24年度末までに全面または部分開業するスケジュールを想定している模様。

## グローバルゲーミング

主な納入先：  
スロットマシンメーカー、カジノホール

ゲーミング向  
プリンター



紙幣識別機



キオスク/精算機

## 海外・国内コマース



駅



パーキング



ATM



バス



完成品メーカーへの  
ユニットの販売



公営競技場



キオスク/精算機



納金機



セルフレジ



ガソリンスタンド

## 遊技場向機器

主な納入先：  
パチンコホール



メダル自動補給回収  
システム

紙幣搬送器



玉・メダル貸機



据置景品払出機



景品管理POS



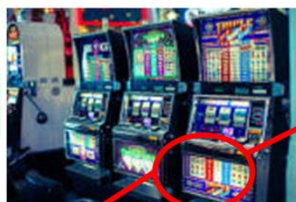
## グローバルゲーミング

競合企業

- ・Transact (USA)
- ・Nanoptix (CAN)



ゲーミング向プリンター



紙幣識別機

(世界市場)



競合企業

- ・Crane payment innovations (MEI, Cash Code, Money Control : (USA))
- ・Innovative Technology (UK)

## 国内コマーシャル



バス



ガソリンスタンド



パーキング



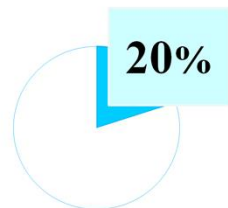
外貨両替所(窓口)



## 遊技場向機器



メダル自動補給回収システム



競合企業

- ・(株)オーイズミ(6428)
- ・(株)ジェッター(非上場)

各製品のシェアは、弊社推定値

日本金銭機械(6418)

JCMグループは、米州、欧州をはじめとした世界のゲーミング市場において、ゲーミング関連機器等の販売と各種サービスを提供しております。現在、北米で200を超えるゲーミングライセンスを取得しており、世界のゲーミング市場における実績とノウハウを保有する数少ない日本企業であると考えております。



世界最大規模のゲーミングショー  
(Global Gaming Expo:  
通称'G2E'), ラスベガス



欧州最大のゲーミングショー  
(International Casino Exhibition:  
通称'ICEショー'), ロンドン



アジア最大のゲーミングショー  
(Global Gaming Expo ASIA:  
通称'G2E ASIA'), マカオ

カジノマシンのメーカーをはじめ、周辺機器、設備、システムやサービスなど、幅広いジャンルの関連企業が集まるゲーミングショーへ毎年出展し、新製品や最新技術をお披露目しております。



国内外の関係者が一堂に会したジャパン・ゲーミング・コンGRESS (JGC) が今年も5月16、17日に東京で開催されましたが、当社グループは、第1回から継続して、スポンサーとして協賛しております。  
左の写真は、当社米国子会社の責任者(左端)が登壇したセッションの様子です。